

## 作品事例による都市住宅の開口領域に関する研究 (2)

平田 圭子\*・森保 洋之\*

(平成7年10月5日受理)

### A Case Study on The Sphere of Space around Opening of Urban Housing. (2)

Keiko HIRATA and Hiroshi MORIYASU

(Received Oct. 5, 1995)

#### Abstract

This study intends to propose a planning method of living environment from an analysis of the view point of interaction of three planning methods. These three planning methods, namely planning of place, planning of inter-sociality and planning of directivity, are derived from a concept of the element of living environment for connection of inside-opening-outside of urban house.

In this paper, analyzed results of planning of place and planning of inter-sociality describe the situation in more detail using unit space of living, constructing method of opening and the number of layers for each sphere of space around opening.

**Key words:** Sphere of Space around Opening, Planning of Living Environment, Urban House.

#### 1. 研究の目的

本研究では、住宅のみを主対象とした従来の「住宅設計計画」の視点から、さらに住宅の一回り周辺の生活領域を含んだ空間、具体的には住宅敷地内までの、住宅の内・外を含んだ空間を統合的にとらえようとする、「生活環境計画」の視点からとらえた計画手法の提案を目的としている。前報では、住宅の内・開口部・外を一つの生活環境体として「開口領域」と命名し、A. 室内空間、B. 開口部、C. 半戸外、D. 屋外の4つの領域に区分し、開口領域内の生活意識をもとにした住生活単位空間構成及び、空間の質を変換する要素を含む構成を層(レイヤー)、その数を層数と定義して報告した。

また、「生活環境計画」の視点の1つとしてとらえ

た「開口領域」の設計計画を行う上で、考慮すべき側面として、①場<sup>#1</sup>の設計計画、②対社会性<sup>#2</sup>の設計計画、③嗜好性<sup>#3</sup>の設計計画、の3つの視点を取りあげ、そのうちの①場の設計計画と、②対社会性の設計計画の視点から都市住宅の分析を行った。その結果、開口領域区分別の空間形態パターンとその層数の組み合わせ方が、住生活単位空間構成と場の関係、及び対社会との間の装置として関わっていることが明らかになった。

本報では、①場の設計計画の視点から得られた住生活単位空間構成から、I. 大単位空間：一つの生活空間として感じる、II. 等質単位空間：各室が等質の感覚比重を持ち全体として一体感が感じられる、III. 小単位空間：小単位の生活空間として感じられるが各室を連続的にとらえられる、IV. 独立単位空間：独立し

\* 広島工業大学環境学部環境デザイン学科

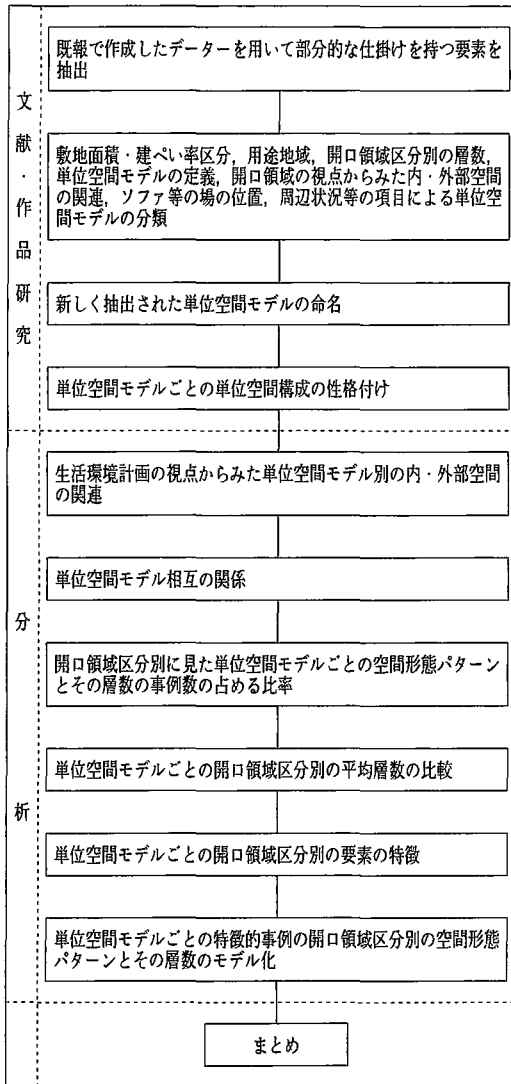


図-1 本報の流れ図

た生活空間として感じるが他空間を連続的にはとらえられない、の4つの住生活単位空間モデル(今後、単位空間モデルと記載)に、さらに住生活単位空間構成内(今後、単位空間構成と記載)に部分的な仕掛け要素を持つ、単位空間モデルの抽出・分析を目的としている。また抽出された単位空間モデルと開口領域との関わりも求める。

## 2. 研究の方法

方法は図-1に示すように、既報<sup>文4)</sup>で作成したデータを用いて、生活環境計画の場の設計計画に影響

を及ぼす単位空間構成に、部分的な仕掛けを持つ要素を抽出・分類した。その要素を含む顕著な代表事例を、敷地面積・建ぺい率の区分<sup>注4)</sup>、用途地域、開口領域区分別の空間形態要素とその組み合わせであるパターン及びその層数、単位空間モデルの定義、開口領域の視点からみた内・外部空間の関連、ソファ等の場の位置、周辺状況等の項目によって、その特徴が明確化するよう事例のプランを含めて表としてまとめた。さらに、新たに抽出された単位空間モデルにその内容を表わすような命名、性格付けをおこなう。

その単位空間モデルごとに生活環境の視点からみた単位空間モデル別の内・外部空間の関連に関する分析を行い、また、単位空間モデル相互の関係を、相互に含まれる比率を表にすることによって得る。次に各単位空間モデルの開口領域区分別の空間形態パターンとその層数を抽出し、事例数の占める比率を表にして比較する。その結果をもとに、単位空間モデルごとの開口領域区分別の平均層数を比較し、どのような空間形態パターンとその層数の要素によって特徴づけられているのか、単位空間モデルごとの開口領域区分別の要素の比率を求める。最期に単位空間モデルごとの特徴的事例の、開口領域区分別の空間形態パターンとその層数のモデルを挙げ、図示する。

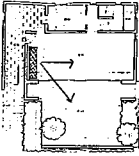
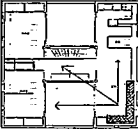
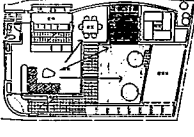

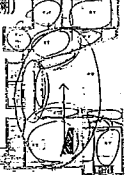
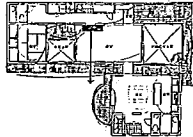
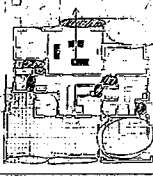
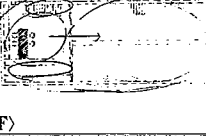
## 3. 結果の概要

### 3-1 生活環境計画の視点からみた単位空間モデル別の内・外部空間の関連

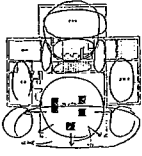

既報において抽出された、I. 大単位空間、II. 等質単位空間、III. 小単位空間、IV. 独立単位空間の4つの単位空間モデルに含まれない単位空間を、既報と同じデータベースによって抽出・分類し、さらに部分的な仕掛け要素を抽出・分類し、その要素を含む顕著な代表事例7つを得た。その結果を表-1のV. からXI. の単位空間モデルに示す。表中には敷地面積・建ぺい率の区分、用途地域、開口領域区分別の空間形態パターンとその層数の関係、単位空間モデルの定義、開口領域の視点からみた内・外部空間の関連、ソファ等の場の位置、周辺状況等の項目によって分析した結果を記載している。さらにこれら7つの単位空間モデルに対して、その形態の特徴から、V. 中単位空間、VI. 包囲単位空間、VII. 付属クッション単位空間、VIII. 視線誘導単位空間、IX. 融合単位空間(平面)、X. 融合単位空間(上下)、XI. 公私分離単位空間と命名した。なお表-1には既に抽出された4つの単位空間モデル(I~IV)も含めて整理した。新たに得られた

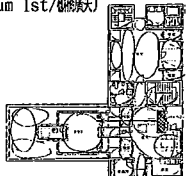
作品事例による都市住宅の開口領域に関する研究 (2)

表-1 生活環境計画の視点よりみた単位空間モデル別の内・外部空間の関連

I. 大単位空間 (自邸/専有)		II. 等質単位空間 (0層/高層階・大計立構)																																																																	
 <p>&lt;1F&gt;</p>	<table border="1"> <tr><th>区分/2</th><th>階数/2住</th></tr> <tr><th>階数</th><th>領域</th><th>要素</th><th>No.</th><th>層数</th></tr> <tr><td>A.</td><td>I</td><td>①</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>B.</td><td>II</td><td>①</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>C.</td><td>I II</td><td>①</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>D.</td><td>III</td><td>①</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>計 9</td></tr> </table>	区分/2	階数/2住	階数	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	2	B.	II	①	4	4	C.	I II	①	2	2	D.	III	①	1	1					計 9	 <p>&lt;2F&gt;</p>	<table border="1"> <tr><th>区分/2</th><th>階数/1住</th></tr> <tr><th>階数</th><th>領域</th><th>要素</th><th>No.</th><th>層数</th></tr> <tr><td>A.</td><td>I</td><td>①</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>B.</td><td>I</td><td>①</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>C.</td><td>III</td><td>②</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>D.</td><td>I</td><td>④</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>計 7</td></tr> </table>	区分/2	階数/1住	階数	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	2	B.	I	①	3	3	C.	III	②	1	1	D.	I	④	1	1					計 7
区分/2	階数/2住																																																																		
階数	領域	要素	No.	層数																																																															
A.	I	①	2	2																																																															
B.	II	①	4	4																																																															
C.	I II	①	2	2																																																															
D.	III	①	1	1																																																															
				計 9																																																															
区分/2	階数/1住																																																																		
階数	領域	要素	No.	層数																																																															
A.	I	①	2	2																																																															
B.	I	①	3	3																																																															
C.	III	②	1	1																																																															
D.	I	④	1	1																																																															
				計 7																																																															
<p>定義：単位空間の構成が、一つの大きな生活空間として捉えられる</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連：                  ・A. 室内領域とC. 半戸外領域の床の素材・レベルが同じように造られ、開口部は大きくとられ、内・外空間が大きく同一の空間に連続している。                  ④：大単位空間に合った配置</p> <p>④：壁により戸外から切り離される。2方向(西・南)の道路に面する。</p>		<p>定義：各単位空間が等質の感覚比重を持つ</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連：                  ・H型プランで各部分が割れ割れと開口部が全体的に開かれている。C. 半戸外領域・D. 屋外領域の開口は広く、各単位空間は独立性に乏しい。                  ④：全体を見渡せる位置に置かれる。</p> <p>④：中庭に面して開放されている。外部に対しては閉じられている。</p>																																																																	
III. 小単位空間 (上記の家/ア・キタノタイプ)		IV. 独立単位空間 (CITY SCREEN/植土被膜)																																																																	
 <p>&lt;1F&gt;</p>	<table border="1"> <tr><th>区分/2</th><th>階数/1住</th></tr> <tr><th>階数</th><th>領域</th><th>要素</th><th>No.</th><th>層数</th></tr> <tr><td>A.</td><td>I</td><td>①</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>B.</td><td>I</td><td>①</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>C.</td><td>I II III</td><td>①</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>D.</td><td>I</td><td>④</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>計 10</td></tr> </table>	区分/2	階数/1住	階数	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	2	B.	I	①	4	4	C.	I II III	①	3	3	D.	I	④	1	1					計 10	 <p>&lt;2F&gt;</p>	<table border="1"> <tr><th>区分/2</th><th>階数/1住</th></tr> <tr><th>階数</th><th>領域</th><th>要素</th><th>No.</th><th>層数</th></tr> <tr><td>A.</td><td>II IV</td><td>③</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>B.</td><td>I</td><td>①</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>C.</td><td>I</td><td>①</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>D.</td><td>I</td><td>①</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>計 10</td></tr> </table>	区分/2	階数/1住	階数	領域	要素	No.	層数	A.	II IV	③	7	7	B.	I	①	3	3	C.	I	①	0	0	D.	I	①	0	0					計 10
区分/2	階数/1住																																																																		
階数	領域	要素	No.	層数																																																															
A.	I	①	2	2																																																															
B.	I	①	4	4																																																															
C.	I II III	①	3	3																																																															
D.	I	④	1	1																																																															
				計 10																																																															
区分/2	階数/1住																																																																		
階数	領域	要素	No.	層数																																																															
A.	II IV	③	7	7																																																															
B.	I	①	3	3																																																															
C.	I	①	0	0																																																															
D.	I	①	0	0																																																															
				計 10																																																															
<p>定義：小単位空間に並置付け、他空間を連続させず</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連：                  ・A. 室内・C. 半戸外・D. 屋外領域が単位化され連続されている。                  ・中庭に面しているB. 開口部は広く開口されている。                  ④：小単位空間を並置付け、他空間を連続させず</p> <p>④：中庭に面し開放。外部に対して閉じる。2方向(西・北)の道路に面す。</p>		<p>定義：他の単位空間とは異なり、独立した生活空間として捉えられる。</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連：                  ・開口部が外に押し出されたような独立したリビング空間は、開口部のあるデッキよりレベルが低く、他よりも多いA. 室内領域を確保している。                  ④：リビングの空間をより確定し他空間を斜めに捉える配置</p> <p>④：2方向(東・西)の道路・隣家に面し、外部に対して閉じられている。</p>																																																																	
V. 中単位空間 (閉鎖的でない中庭の家/宮本建築)		VI. 包摂単位空間 (巨大館の家/藤村建築)																																																																	
 <p>&lt;1F&gt;</p>	<table border="1"> <tr><th>区分/2</th><th>階数/1住</th></tr> <tr><th>階数</th><th>領域</th><th>要素</th><th>No.</th><th>層数</th></tr> <tr><td>A.</td><td>I</td><td>①</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>B.</td><td>I</td><td>①</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>C.</td><td>I IV</td><td>⑥</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr><td>D.</td><td>I</td><td>③</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>計 11</td></tr> </table>	区分/2	階数/1住	階数	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	2	B.	I	①	3	3	C.	I IV	⑥	5	5	D.	I	③	1	1					計 11	 <p>&lt;2F&gt;</p>	<table border="1"> <tr><th>区分/2</th><th>階数/2住</th></tr> <tr><th>階数</th><th>領域</th><th>要素</th><th>No.</th><th>層数</th></tr> <tr><td>A.</td><td>I</td><td>①</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>B.</td><td>I</td><td>①</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>C.</td><td>I</td><td>①</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>D.</td><td>I</td><td>④</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>計 9</td></tr> </table>	区分/2	階数/2住	階数	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	2	B.	I	①	3	3	C.	I	①	3	3	D.	I	④	1	1					計 9
区分/2	階数/1住																																																																		
階数	領域	要素	No.	層数																																																															
A.	I	①	2	2																																																															
B.	I	①	3	3																																																															
C.	I IV	⑥	5	5																																																															
D.	I	③	1	1																																																															
				計 11																																																															
区分/2	階数/2住																																																																		
階数	領域	要素	No.	層数																																																															
A.	I	①	2	2																																																															
B.	I	①	3	3																																																															
C.	I	①	3	3																																																															
D.	I	④	1	1																																																															
				計 9																																																															
<p>定義：単位空間の半分以上がまとまりの生活空間として捉えられる</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連：                  ・中庭を中心に取り囲んでいる単位空間のB. 開口部領域は3つであり、全体的に開口部がとられ、その一部の単位空間一つに捉えられる。中庭に面した開口部にはデッキがあり、より室内と屋外の領域を近づける。                  ④：中庭に合った配置</p> <p>④：隣家の侵入している傾斜地。1方向(北)の道路に面する。</p>		<p>定義：居住用途の単位空間を包摂するような形態・位置の単位空間</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連：                  ・屋上の縁取・左右にわたる位置に屋上外の単位空間が配置され、屋外や他の層部から容易にアクセスが得られている。                  ・2FのLDは、包摂する空間(ヘランク)によって下からの開放を促す。                  ④：包摂された方向に合った配置</p> <p>④：道路・隣家に面している。1方向(東)の道路に面する。</p>																																																																	
VII. 付帯クッション単位空間 (元解本の家/奥村建築)		VIII. 複合単位空間 (0層/安藤建築研究所)																																																																	
 <p>&lt;1F&gt;</p>	<table border="1"> <tr><th>区分/2</th><th>階数/2住</th></tr> <tr><th>階数</th><th>領域</th><th>要素</th><th>No.</th><th>層数</th></tr> <tr><td>A.</td><td>I</td><td>①</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>B.</td><td>I</td><td>②</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>C.</td><td>II</td><td>①</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>D.</td><td>I II IV</td><td>①</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>計 12</td></tr> </table>	区分/2	階数/2住	階数	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	2	B.	I	②	4	4	C.	II	①	1	1	D.	I II IV	①	5	5					計 12	 <p>&lt;2F&gt;</p>	<table border="1"> <tr><th>区分/2</th><th>階数/2住</th></tr> <tr><th>階数</th><th>領域</th><th>要素</th><th>No.</th><th>層数</th></tr> <tr><td>A.</td><td>I</td><td>①</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>B.</td><td>I</td><td>①</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>C.</td><td>I III</td><td>⑦</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>D.</td><td>I</td><td>①</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>計 9</td></tr> </table>	区分/2	階数/2住	階数	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	2	B.	I	①	3	3	C.	I III	⑦	4	4	D.	I	①	0	0					計 9
区分/2	階数/2住																																																																		
階数	領域	要素	No.	層数																																																															
A.	I	①	2	2																																																															
B.	I	②	4	4																																																															
C.	II	①	1	1																																																															
D.	I II IV	①	5	5																																																															
				計 12																																																															
区分/2	階数/2住																																																																		
階数	領域	要素	No.	層数																																																															
A.	I	①	2	2																																																															
B.	I	①	3	3																																																															
C.	I III	⑦	4	4																																																															
D.	I	①	0	0																																																															
				計 9																																																															
<p>定義：居室の入り口(開口部)に付属したより小さな単位空間を持つ</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連：                  ・各居室の入り口(開口部)に小さな空間を設けることによって他居室空間に心理的な隔りをもたせ、LDの屋外の開口部領域の層数も4になり、内・外を隔てるようなC. 半戸外領域の単位空間がある。                  ④：公共空間の中庭・四方に開放が行く。</p> <p>④：植栽の多い傾斜地。2方向(西・北)の道路に面し交通量多し。</p>		<p>定義：視線の方向が確定され、室内と半戸外が一体として捉えられる</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連：                  ・C. 半戸外領域の構造が大きく屋外空間を包み込み、層数も多く、居室の一方の開口部を通してA. 室内領域が、C. 半戸外領域に取り込まれたような感覚になっている。D. 屋外領域の層数は0になっている。                  ④：単位空間に並置付け、全体を見渡せる配置</p> <p>④：植栽の多い傾斜地の下。他3面(東・南・北)の道路に面する。</p>																																																																	

〈前表の続き〉

<p>IX. 融合単位空間（平面） （浄苑の住宅/木下啓子）</p>  <p>区分/3 階数/1住</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>要素</th> <th>No.</th> <th>層数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A.</td> <td>I</td> <td>①</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>B.</td> <td>I</td> <td>①</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>C.</td> <td>I</td> <td>①</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>D.</td> <td>I</td> <td>④</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>計 6</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈2F〉</p> <p>定義：少数単位内で互いに融合した、一つの生活空間として捉えられる</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の階差： ・リビングルームが屋外へせり出し、B. 開口部領域の層数は3、C. 半戸外領域の層数は0になり、せり出した居室部分の壁面三方の最大限の開口部により屋外と一体感を出している。</p> <p>壁：融合された空間の中央に設置</p> <p>扉：極多めの住宅地。2方向（西・南）の通路に面する。</p>	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	B.	I	①	3	C.	I	①	0	D.	I	④	1				計 6	<p>X. 融合単位空間（上下） （Mint House/外塚英夫）</p>  <p>区分/2 階数/1住</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>要素</th> <th>No.</th> <th>層数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A.</td> <td>I</td> <td>①</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>B.</td> <td>I</td> <td>①</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>C.</td> <td>i Ⅲ</td> <td>①</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>D.</td> <td>I</td> <td>①</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>計 7</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈B1〉</p> <p>定義：単位空間が上下階を繋ぎ、融合する</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の階差： ・中央の階段部分が縦の単位空間を形成し、それは融合して居室はスキップフロアになっている。</p> <p>壁：融合される単位空間の最下端位置から、中央に向かって設置</p> <p>扉：1方向（東）の通路に面する。住宅地。</p>	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	B.	I	①	3	C.	i Ⅲ	①	2	D.	I	①	0				計 7
領域	要素	No.	層数																																														
A.	I	①	2																																														
B.	I	①	3																																														
C.	I	①	0																																														
D.	I	④	1																																														
			計 6																																														
領域	要素	No.	層数																																														
A.	I	①	2																																														
B.	I	①	3																																														
C.	i Ⅲ	①	2																																														
D.	I	①	0																																														
			計 7																																														

<p>XI. 公私分離単位空間 （Aurorium Ist/松橋英夫）</p>  <p>区分/3 階数/1住</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>要素</th> <th>No.</th> <th>層数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A.</td> <td>I</td> <td>①</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>B.</td> <td>I</td> <td>②</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>C.</td> <td>Ⅲ IV</td> <td>①</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>D.</td> <td>I</td> <td>①</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>計 9</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈2F〉</p> <p>定義：同一フロアに公私の単位空間を明快地分離する単位空間を持つ</p> <p>開口領域の観点よりみた内・外部空間の階差： ・居室外（階段・サンタリ等）の単位空間により同一フロアに共存する公的・私的単位空間が分離される。公的居室は、B. 開口部領域の層数4を持ち、C. 半戸外領域の層数3によって2Fに位置する屋外にワンクッションを持つ。</p> <p>壁：公的単位空間に面した位置</p> <p>扉：敷地内・外共にありある空間。2方向（東・南）の通路に面する。</p>	領域	要素	No.	層数	A.	I	①	2	B.	I	②	4	C.	Ⅲ IV	①	3	D.	I	①	0				計 9	<p>室内と半戸外が一体としてとらえられる。C. 半戸外領域の構造体が大きく屋外空間を包み込み、層数も4あり、層数の少ないB. 開口部領域によって、A. 室内空間領域とC. 半戸外領域を一体化している。D. 屋外領域の層数は0である。</p> <p>IX. 融合単位空間（平面）は、少数単位空間内で互いに融合した一つの生活空間としてとらえられる。単位空間は内・外を問わないが、ここでは特に意識して内・外部を一体として設計している事例を提示した。この事例はリビングルーム（2F）が屋外へせり出し、B. 開口部領域の層数は3と少なく、C. 半戸外領域の層数も0であり、D. 屋外領域の層数も1と少ない。しかし、敷地面積・建ぺい率の区分は3であり、第1種住居専用地域で敷地にゆとりがみられる。</p> <p>X. 融合単位空間（上下）は、単位空間が上下階を繋ぎ融合する。中央の階段部分が縦の単位空間を形成し、それに結合して居室はスキップフロアになっている。C. 半戸外領域やD. 屋外領域が意識されるより、A. 室内空間領域の上下の単位空間の融合が強調されており、場（ソファ等）も上下の融合単位空間の方を向いて設置されている。</p> <p>XI. 公私分離単位空間は、同一フロアに公私の単位空間を明快地分離する単位空間を有する。この事例は、同一フロアに共存する公的な居室と私的な居室間に、それを分離するような単位空間（階段・サンタリ）を有する。また、公的居室は、B. 開口部領域に層数4を持ち、C. 半戸外領域の層数3によって、2階に位置する屋上（屋外）にワンクッションを持つ。</p> <p>以上のことから、各単位空間モデルの関係に次のようなことが明らかとなった。</p> <p>① IX. 融合単位空間（平面）の場合、少数単位空間内で一体として空間がとらえられるが、その数が増え半分以上の単位空間が一体としてとらえられる場</p>
領域	要素	No.	層数																						
A.	I	①	2																						
B.	I	②	4																						
C.	Ⅲ IV	①	3																						
D.	I	①	0																						
			計 9																						

7つの単位空間モデルの内容を代表事例をもとにまとめると、次のように整理できる。

V. 中単位空間は、単位空間の半分以上が一つのまとまりの生活空間としてとらえられ、B. 開口部領域の層数は最低限の3となっており、全面的に開口部がとられ、C. 半戸外領域は、内と外を繋ぐような装置としてデッキがあり、その一帯の単位空間が一つにとらえられる。またD. 屋外領域の層数は1と少なく、中庭を挟んで居間に対する居室空間を身近に繋いでいる。

VI. 包囲単位空間は、A. 室内空間・C. 半戸外領域が、居室を包囲するような単位空間を持っており、さらに総層数は9と心理的に内・外部空間を隔てるが、B. 開口部・C. 半戸外領域の層数は3で少なく、単位空間で包囲されながらも屋外とは近い関係を持っている。

VII. 付属クッション単位空間は、居室の入口（開口部）に小さな空間を持ち、他の居室空間を隔てる。C. 半戸外領域も狭い空間を持ち、外部と室内を切り離す役目を持っており、B. 開口部の層数は4、D. 屋外領域は外部からの視線を遮るように層数が5と多くなっている。

VIII. 視線誘導単位空間は、視線の方向が限定され、

表一 2 単位空間モデル相互の関係

(複数回答) 単位: %

X軸(事例数)	Y軸	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI
I. 大単位空間(10)			10	—	—	—	—	—	10	60	—	—
II. 等質単位空間(1)		100		—	—	—	—	—	—	—	—	—
III. 小単位空間(20)		—	—		—	—	—	5	—	10	40	—
IV. 独立単位空間(1)		—	—	—		—	100	—	—	—	100	—
V. 中単位空間(12)		—	—	—	—		17	17	—	75	25	8
VI. 包囲単位空間(11)		—	—	—	9	18		45	—	90	64	9
VII. 付属クッション単位空間(7)		—	—	14	—	29	71		—	43	14	—
VIII. 視線誘導単位空間(1)		100	—	—	—	—	—	—		—	—	—
IX. 融合単位空間(平面)(44)		14	—	5	—	20	23	7	—		20	7
X. 融合単位空間(上下)(15)		—	—	47	6	20	47	7	—	60		—
XI. 公私分離単位空間(4)		—	—	—	—	25	25	—	—	75	—	

合はV. 中単位空間になり、さらに単位空間構成全体が一つにとらえられる場合に、I. 大単位空間となる。

②. 開口領域と単位空間モデルごとの要素は、A. 室内空間領域・C. 半戸外領域の単位空間構成にも同じような要素の特徴を表す(V~XIモデルが該当)。

③. C. 半戸外領域の作られ方には、a) 内・外部空間を繋ぐ、b) 内・外部空間を切り離す、c) 内・外部空間に距離を置く、の3つの役割がある。

④. 事例の開口領域の作られ方に、イ) A. 室内空間領域+B. 開口部領域、ロ) A. 室内空間領域+B. 開口部領域+C. 半戸外領域、ハ) A. 室内空間領域+B. 開口部領域+D. 屋外領域、ニ) A. 室内空間領域+B. 開口部領域+C. 半戸外領域+D. 屋外領域、の4つがあることが確認された。

### 3-2 単位空間モデル相互の関係

単位空間モデルごとの事例としては、その要素を特に顕著に表しているものを提示したが、詳細に観察すると他の単位空間空間モデルの要素も含んで複合化している。これらの複合関係を整理して、表一2に示す。本表の見方は、縦のX軸の単位空間モデルが横のY軸の単位空間モデルに含まれる事例数の比率(%)を斜線の下に、反対に含む事例数の比率を斜線の上に表示した。表一2より得られた内容をまとめると、次の通りである。

IX. 融合単位空間(平面)は他の7つの単位空間モデルと関わり、VI. 包囲単位空間とX. 融合単位空間

(上下)は6つと関わる単位空間数が多く、反対にII. 等質単位空間・VIII. 視線誘導単位空間は1つ、I. 大単位空間のみに含まれる。また、IV. 独立単位空間は、VI. 包囲単位空間とX. 融合単位空間(上下)の2つに含まれることが解った。

VI. 包囲単位空間は、VII. 付属クッション単位空間・X. 融合単位空間(上下)とに相互に含まれることが多い。

I. 大単位空間、III. 小単位空間、IV. 独立単位空間、V. 中単位空間の相互間では含まれることがない。

以上により、単位空間モデルごとが相互に含まれることにより内・外部の空間の関係は多様化し、それに伴って開口領域も多様化する。これにより、開口領域だけを分析するのではなく、その背景と開口領域の関わりを見る必要性が確認された。

### 3-3 開口領域区分別に見た単位空間モデルごとの空間形態パターンとその層数の事例中に占める比率

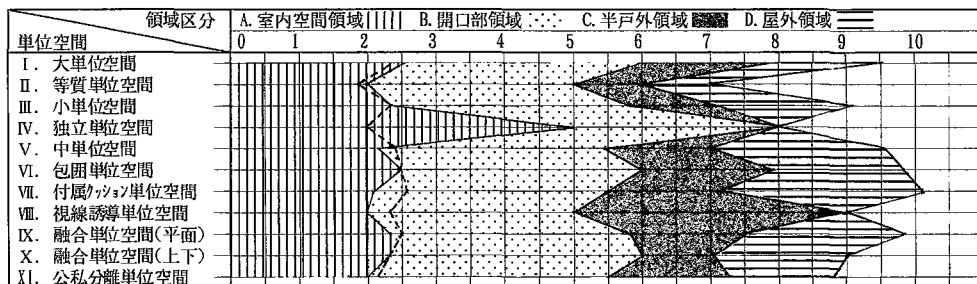
各単位空間モデルを、既報の図一6「『開口領域』区分別の要素・空間形態パターンとその層数」により、各開口領域区分別の空間形態パターンとその層数の事例数の占める比率を求め、表一3に示した。表において、A. 室内空間領域の開口領域区分別の空間形態パターンとその層数は7パターン、B. 開口部領域は6パターン、C. 半戸外領域は27パターン、D. 屋外領域は25パターンとなり、C. 半戸外領域のパターン数

表-3 開口領域区別に見た単位空間ごとの空間形態パターンとその層数の事例中に占める比率

単位：%。\*パターン・層数の見方は、広島工業大学研究紀要第29巻P.217-図-6「開口領域区別別の要素空間形態パターンとその層数」による。\*単位空間モデル内の( )内の数字は事例数

単位空間 モデル	要素区分 パターン・層数	A. 室内空間要素								B. 室外空間要素								C. 半戶外要素							
		I02	I03	I04	I03	I05	I04	I05	パターン 比率	I03	I04	I04	I05	I05	I06	パターン 比率	I00	I01	I01	I01	I02				
I. 大単位空間 (10)		90	10	-	-	-	-	-	29	70	10	-	10	10	-	67	40	-	-	-	10				
II. 等単位空間 (1)		100	-	-	-	-	-	-	14	100	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-				
III. 小単位空間 (20)		85	10	-	-	-	5	-	43	80	10	-	-	5	-	67	40	-	5	5	10				
IV. 独立単位空間 (1)		-	-	-	-	-	-	100	14	-	-	100	-	-	-	17	100	-	-	-	-				
V. 中単位空間 (12)		92	-	-	-	-	-	8	29	83	17	-	-	-	-	33	35	-	8	-	-				
VI. 窓型単位空間 (11)		73	18	-	-	-	-	-	43	45	45	-	10	-	-	50	37	9	-	-	-				
VII. 付属クッション単位空間(7)		86	14	-	-	-	-	-	29	57	43	-	-	-	-	33	44	-	-	-	-				
VIII. 視察観察単位空間 (1)		100	-	-	-	-	-	-	14	100	-	-	-	-	-	17	100	-	-	-	-				
IX. 融合単位空間(平衝) (44)		83	9	2	2	2	2	2	86	66	23	2	7	2	-	83	29	2	5	2	5				
X. 融合単位空間(上付) (15)		73	20	-	-	-	-	-	43	67	27	-	-	-	-	50	44	7	-	7	-				
XI. 公私分離単位空間 (4)		100	-	-	-	-	-	-	14	50	50	-	-	-	-	33	-	-	25	-	25				
単位空間 モデル	要素区分 パターン・層数	C. 半戶外要素																							
		I03	I01	I02	I03	I04	I01	I01	I03	I02	I03	I03	I04	I04	I03	I02	I03	I04	I05	I05	I02	I03			
I. 大単位空間 (10)		10	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	10	-	-			
II. 等単位空間 (1)		-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
III. 小単位空間 (20)		-	-	-	-	-	-	5	-	5	10	-	10	-	-	5	-	-	-	-	5	-			
IV. 独立単位空間 (1)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
V. 中単位空間 (12)		8	-	-	-	-	-	-	17	-	8	-	8	-	-	8	-	-	-	8	-	-			
VI. 窓型単位空間 (11)		18	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	9	-	-	-	9	-	9	-			
VII. 付属クッション単位空間(7)		14	14	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-				
VIII. 視察観察単位空間 (1)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
IX. 融合単位空間(平衝) (44)		2	2	2	2	2	2	2	5	2	10	5	5	2	2	2	2	2	-	2	2	2			
X. 融合単位空間(上付) (15)		7	-	-	-	7	-	-	7	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-			
XI. 公私分離単位空間 (4)		-	-	-	-	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25			
単位空間 モデル	要素区分 パターン・層数	D. 半戶外要素																							
		I00	I01	I01	I02	I02	I02	I05	I06	I06	I06	I06	I06	I06	I06	I06	I06	I06	I06	I06	I06	I06			
I. 大単位空間 (10)		26	40	-	10	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	10	-			
II. 等単位空間 (1)		4	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
III. 小単位空間 (20)		37	30	15	5	-	10	5	-	-	-	-	-	5	5	-	5	-	5	-	-	-			
IV. 独立単位空間 (1)		4	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
V. 中単位空間 (12)		30	18	18	8	-	-	8	-	-	-	-	-	8	8	-	-	-	-	8	-	8			
VI. 窓型単位空間 (11)		26	18	-	-	28	9	-	-	-	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
VII. 付属クッション単位空間(7)		19	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	14			
VIII. 視察観察単位空間 (1)		4	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
IX. 融合単位空間(平衝) (44)		93	33	11	11	2	8	-	2	2	2	5	2	2	2	2	2	2	2	8	2	2			
X. 融合単位空間(上付) (15)		33	38	-	-	7	7	-	-	7	-	-	-	7	-	-	-	-	-	13	-	-			
XI. 公私分離単位空間 (4)		15	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	-			
単位空間 モデル	要素区分 パターン・層数	D. 半戶外要素				パターン 比率																			
		I00	I02	I03	I03																				
I. 大単位空間 (10)		-	10	-	-	24																			
II. 等単位空間 (1)		-	-	-	-	4																			
III. 小単位空間 (20)		5	5	-	5	48																			
IV. 独立単位空間 (1)		-	-	-	-	4																			
V. 中単位空間 (12)		8	8	-	-	40																			
VI. 窓型単位空間 (11)		9	-	18	-	28																			
VII. 付属クッション単位空間(7)		14	-	30	-	24																			
VIII. 視察観察単位空間 (1)		-	-	-	-	4																			
IX. 融合単位空間(平衝) (44)		2	5	-	2	84																			
X. 融合単位空間(上付) (15)		-	-	-	7	36																			
XI. 公私分離単位空間 (4)		-	-	-	25	12																			

作品事例による都市住宅の開口領域に関する研究 (2)



単位は層数、----- (破線) は、開口領域区分全体の平均層数  
 図-2 各単位空間モデルの開口領域区分別の平均層数の比較

表-4 各単位空間モデルの開口領域区分別の空間形態要素の特徴

〔要素：I (基本), II (段差), III (分割), IV (素材差)] (複数回答) 単位：%

単位空間	領域区分 要素	A. 室内空間領域				B. 開口部領域				C. 半戸外領域				D. 屋外領域			
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
I. 大単位空間		90	10	0	0	80	20	0	0	90	10	40	10	100	10	20	20
II. 等質単位空間		100	0	0	0	100	0	0	0	0	100	0	100	0	0	0	
III. 小単位空間		85	15	5	0	90	5	5	0	85	30	25	5	100	15	25	30
IV. 独立単位空間		0	100	0	100	100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	0	0
V. 中単位空間		92	8	0	8	100	0	0	0	83	25	33	8	100	17	50	33
VI. 包囲単位空間		73	27	0	9	91	9	0	0	91	18	27	9	100	18	27	27
VII. 付属クッション単位空間		86	14	0	0	100	0	0	0	71	29	14	0	100	14	43	57
VIII. 視線誘導単位空間		100	0	0	0	100	0	0	0	100	0	100	0	100	0	0	0
IX. 融合単位空間 (平面)		82	16	5	2	89	11	0	0	77	36	30	5	98	23	32	18
X. 融合単位空間 (上下)		73	27	0	7	93	0	7	0	80	13	27	0	100	20	27	20
XI. 公私分離単位空間		100	0	0	0	100	0	0	0	50	0	50	25	75	0	50	25

が一番多く、B. 開口部領域が一番少ない。各単位空間モデルにおける空間形態パターン数の占める比率 (パターン比率) をみると、IX. 融合単位空間 (平面) の場合は事例数も多いが、A. 室内空間領域は86%、B. 開口部領域は83%、C. 半戸外領域は93%、D. 屋外領域は84%となっており、パターン数の多いことを示している。全体的にはパターン比率は、各単位空間モデルに多く現われる。開口領域区分別の空間形態パターンとその層数を見ると、事例数に比例している。

多い空間形態パターンとその層数をみると、A. 室内空間領域「I①2」(見方：Iは、開口領域区分別の層の空間要素を、①はナンバー、2は層数を現わす。

詳細は、文献4)のpp.217の図-6の各要素等と対応されたい。)が多く、IV. 独立単位空間 (事例数1)のみ「IIIV③5」のパターンとなり、層数も一番多い。B. 開口部領域も「I①3」のパターンが多く、IV. 独立単位空間が「II②4」、XI. 公私分離単位空間は「I①3」・「I②4」に分かれている。C. 半戸外領域が「I①0」のパターンが多く、2階以上に公的居室が位置することの多さが現れ、II. 等質単位空間は「III②1」と層数が少なく、XI. 公私分離単位空間は「I④1」・「I⑧2」・「III②1」・「IIIIV①3」と均等に分かれた。D. 屋外領域は2階以上に公的居室が多いことにより、半数以上の単位空間モ

単位空間モデル 領域区分	表-1による特徴的事例の単位空間モデル図			
	A. 室内空間領域	B. 開口部領域	C. 半戶外領域	D. 屋外領域
I. 大単位空間				
パターン・層数	I02	I04	II02	III01
I. 等質単位空間				
パターン・層数	I02	I03	III01	I01
II. 小単位空間				
パターン・層数	I02	I03	IIII03	I01
IV. 独立単位空間				
パターン・層数	IIIV05	I03	I00	I00
V. 中単位空間				
パターン・層数	I02	I03	IIIV05	I01
VI. 視線誘導単位空間				
パターン・層数	I02	I03	I03	I01
VII. 視線誘導 クッション 単位空間				
パターン・層数	I02	I04	I01	IIIV05
VIII. 視線誘導 単位空間				
パターン・層数	I02	I03	IIIV04	I00
IX. 融合単位空間 (平面)				
パターン・層数	I02	I03	I00	I01
X. 融合単位空間 (上下)				
パターン・層数	I02	I03	IIIV02	I00
XI. 高低差 単位空間				
パターン・層数	I02	I04	IIIV03	I00

図-3 単位空間モデルごとの特徴的事例の開口領域区分別の空間形態パターンとその層数のモデル化

デルが「I①0」のパターンとなっている。II. 等質単位空間は「I④1」、V. 中単位空間は「I①0」・「I③1」が多いが、その他に8種類のパターンが現われている。VI. 包囲単位空間は「I④1」の占める比率が多いが、他6種類のパターンが現われている。VII. 付属クッション単位空間は「IIV②3」が多く、他5種類のパターンが現われている。

### 3-4 単位空間モデルごとの開口領域区分別の平均層数の比較

表-3のデータをもとにした、単位空間モデルごとの開口領域区分別の平均層数を図に表わしたものが、図-2である。この図を見ると平均層数の4つの領域の合計数では、VII. 付属クッション単位空間、IX. 融合単位空間(平面)が多い。少ないのは、II. 等質単位空間、IV. 独立単位空間である。しかしA. 室内空間領域では、IV. 独立単位空間の平均層数が突出して多く、C. 半戶外領域・D. 屋外領域の平均層数が0となっている。VIII. 視線誘導単位空間も、C. 半戶外領域の平均層数が他に比べて多いが、D. 屋外領域の平均層数は0となっている。単位空間モデルごとの平均層数は似た値を示すが、領域ごとの平均層数の合計数には差がある。これは、C. 半戶外領域・D. 屋外領域で層数の少ないものが、A. 室内空間領域・B. 開口部領域の層数では多く、また反対にC. 半戶外領域の層数の多いものが、D. 屋外領域の層数が0となっているこれらの事例などから、単位空間モデルごとの空間特性によって、開口領域区分ごとの平均層数の構成に関連があるためと推測される。なお図中の破線は、開口領域区分全体の平均層数である。

### 3-5 単位空間モデルごとの開口領域区分別の要素の特徴

同じく表-3のデータをもとに、開口領域区分別の層の空間形態要素、I(基本)、II(段差)、III(分割)、IV(素材差)による単位空間モデルごとの事例の特徴を表-4に示した。これをみると、次のことが明らかとなった。

A. 室内空間領域では、I(基本)が多く次に、II(段差)が多い。IV. 独立単位空間は1事例だが、II(段差)と、IV(素材差)を含む。IV(素材差)を含むものは、11の単位空間モデルのうち5つの単位空間モデルのみである。

B. 開口部領域では、I(基本)を中心に、II(段差)を含む単位空間モデルは4つ、III(分割)におい



ては2つだけである。

C. 半戸外領域では、I (基本) は10, II (段差) は7つ, III (分割) では10, IV (素材差) は6つと多様になり, II. 等質単位空間・VIII. 視線誘導単位空間・XI. 公私分離単位空間は、要素III (分割) の占める割合が多い。

D. 屋外領域は様々な様相を示す。III (分割) では、VIII. 視線誘導単位空間とV. 中単位空間・XI. 公私分離単位空間が多く、要素IV (素材差) はVII. 付属クッション単位空間が多い。

全体をみると、VIII. 視線誘導単位空間は関わる要素が少なく、明快に空間の方向性を示しており、XI. 公私分離単位空間はC. 半戸外領域・D. 屋外領域において要素III (分割) ・IV (素材差) が現われ、より空間の分離を表している。これらにより、層の要素も単位空間モデルの空間特性に関わることが読みとれる。

### 3-6 単位空間モデルごとの特徴的事例の開口領域区分別の空間形態パターンのモデル化

表-1の単位空間モデルごとの、特徴的事例の開口領域区分別の空間形態パターンとその層数をモデル化して図-3に示した。単位空間モデルごとにもと、次のように整理される。

I. 大単位空間のモデル図は、C. 半戸外領域のデッキにより、A. 室内空間領域とレベルを等しくし、空間の一体化を表している。

II. 等質単位空間は、全体の層数も少なくシンプルな形態パターンを示し、向い合う居室の目隠しに、D. 屋外領域に植栽を施している。

IV. 独立単位空間は、A. 室内空間領域に段差と素材差を持ち、心理的に外部との隔たりに感じさせている。

V. 中単位空間は、向い合う居室の各々のC. 半戸外領域のデッキによって、内・外部空間を連続的に繋いでいる。

VI. 包囲単位空間は、C. 半戸外領域のデッキ及びD. 屋外領域の植栽によって外部と隔てている。

VII. 付属クッション単位空間は、B. 開口部領域・C. 半戸外領域・D. 屋外領域の各領域において、他の居室空間を隔てる要素が組まれている。

VIII. 視線誘導単位空間は、C. 半戸外領域によって視線が誘導されている。

IX. 融合単位空間 (平面) は、A. 室内空間領域・B. 開口部領域・C. 半戸外領域がシンプルに構成され、各領域を近づけている。

XI. 公私分離単位空間は、B. 開口部領域とC. 半戸外領域によって分離する要素を強めている。

III. 小単位空間とX. 融合単位空間 (上下) は、このモデル図によっては空間特性が抽出しにくい。

平均的形態パターンから導き出したモデル図では、特徴が明確には現われていないが、特徴的な事例のモデル図を作成して比較したところ、単位空間モデルごとの空間特性を読みとれることが確認された。

## 4. ま と め

以上のことから次のようなことがわかった。

- 1) 4つの単位空間モデル、I. 大単位空間、II. 等質単位空間、III. 小単位空間、IV. 独立単位空間のほか、新たにV. 中単位空間、VI. 包囲単位空間、VII. 付属クッション単位空間、VIII. 視線誘導単位空間、IX. 融合単位空間 (平面)、X. 融合単位空間 (上下)、XI. 公私分離単位空間の7つの単位空間モデルが抽出された。
- 2) IX. 融合単位空間 (平面) の場合、少数単位空間内で一体として空間がとらえられるが、その数が増え半分以上の単位空間が一体としてとらえられる場合は、V. 中単位空間になり、さらに単位空間構成全体が一つにとらえられる場合には、I. 大単位空間となる。
- 3) 開口領域と単位空間モデルごとの要素は、A. 室内空間領域・C. 半戸外領域の単位空間構成にも同じような要素の特徴を示す (V~XIモデルが該当)。
- 4) C. 半戸外領域の作られ方には、a) 内・外部空間を繋ぐ、b) 内・外部空間を切り離す、c) 内・外部空間に距離を置く、の3つの役割がある。
- 5) 事例の開口領域の作られ方に、イ) A. 室内空間領域+B. 開口部領域、ロ) A. 室内空間領域+B. 開口部領域+C. 半戸外領域、ハ) A. 室内空間領域+B. 開口部領域+D. 屋外領域、ニ) A. 室内空間領域+B. 開口部領域+C. 半戸外領域+D. 屋外領域、の4つがあることが確認された。
- 6) 内・外部の空間の関係は単位空間モデルごとが相互に含まれることにより多様化し、それに伴って開口領域も多様化する。これにより、開口領域だけを分析するのではなく、その背景と開口領域の関わりを検討する必要性が確認された。
- 7) C. 半戸外領域とD. 屋外領域において層数の少ないものは、A. 室内空間領域・B. 開口部領域の層数が多く、反対にC. 半戸外領域の層数の多いものが、D. 屋外領域の層数が0となっているなど、

単位空間モデルごとの空間特性によって、各開口領域区分の平均層数の構成に関連があることが解った。

- 8) 層の空間形態要素も、単位空間モデルの空間特性に関わることが読みとれた。
- 9) 単位空間モデルごとの特徴的事例における、開口領域区分別の空間形態パターンとその層数のモデル化により、単位空間モデルごとの空間特性が読みとれることが確認された。

## 謝 辞

本大学の篠原正道教授には、研究遂行上様々なご指導を賜り深く感謝いたします。

## 備 考

———：本報に示す表-1～表-4および図-3の中の太実線は、既に提案している単位空間構成の複合的要素の少ない単位空間モデルであるI～IVモデルを示す。

## 注

- 注<sup>1</sup>場：居住者の行動の中心となる場所
- 注<sup>2</sup>対社会性：個人・家族と社会との関係（含む、場、視線交流）だけではなく、自然の景色、外の気配等までを考慮する
- 注<sup>3</sup>嗜好性：生活様式や感覚的好み
- 注<sup>4</sup>区分：敷地面積・建ぺい率の区分（1＝敷地面積0～300㎡・建ぺい率67～100%，2＝敷地面積0～600㎡・建ぺい率0～100%，3＝敷地面積301㎡～・建ぺい率0～100%）

## 文 献

- 1) 平田圭子，森保洋之：都市住宅に於ける開口領域に関する基礎的研究 その1，住宅作品事例の分析，日本建築学会中国支部研究報告集，第18巻，pp. 361-364，(1994)
- 2) 平田圭子，森保洋之：都市住宅における開口領域に関する基礎的研究 その1 住宅作品事例による分析，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 131-132，(1994)
- 3) 平田圭子，森保洋之：開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連に関する研究，日本インテリア学会 第6回大会研究発表梗概集，pp. 12-13，(1994)
- 4) 平田圭子，森保洋之：作品事例による都市住宅の開口領域に関する研究，広島工業大学研究紀要第29巻，pp. 211-220，(1995)
- 5) 平田圭子：現代都市住宅の空間構造に関する考察—ハウジングメーカーのモデルプランの基礎的分析—，日本建築学会中国支部研究報告，第19巻，pp. 345-348，(1995)
- 6) 平田圭子，森保洋之：ハウジングメーカーモデルプランの対社会性の設計計画の分析 都市住宅における開口領域に関する基礎的研究 その2，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 217-218，(1995)
- 7) 平田圭子，森保洋之：開口領域の観点よりみた内・外部空間の関連に関する研究(2)，日本インテリア学会 第7回大会研究発表梗概集，pp. 38-39，(1995)